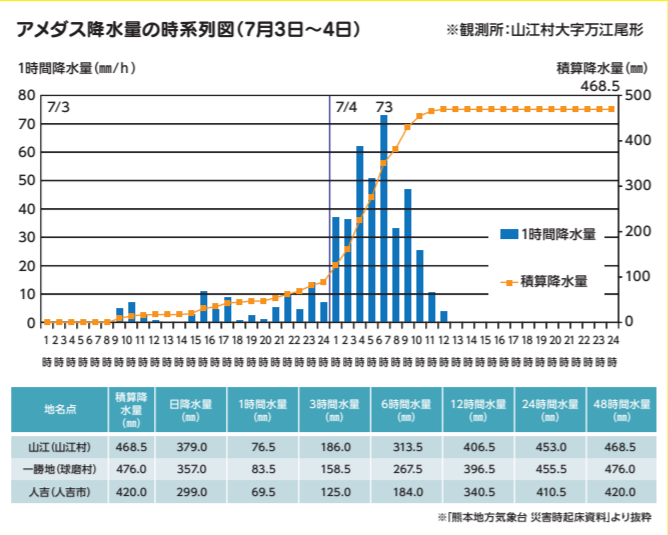


令和2年7月豪雨

どうして豪雨となったのか

●豪雨をもたらした線状降水帯

熊本県内では令和2年7月3日夜から低気圧や梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、3日夜から4日朝にかけて熊本県南部では局地的に猛烈な大雨となり、鹿児島県鹿屋市で1時間雨量109.5ミリを観測。24時間雨量は熊本県、鹿児島県、福岡県でそれぞれ400ミリ以上を記録し、特に日本三大急流のひとつ球磨川流域上空には「線状降水帯」が居座り、山江村においても3日からの24時間総降水量が453ミリを記録し、過去にない大雨を長時間降らせた結果、球磨川や支流河川で氾濫し大洪水となり、死者・行方不明者67人という大惨事となった。



予防的避難

大雨や台風などは夜間に影響を及ぼすことがほとんどで令和2年7月豪雨災害で「危険なことが起こるかもしれない」と感じた住民は午前5時台で、明け方になってからであった。命を守る避難の方法は、安全な場所に事前に避難することが原則であり、雨が強く降る前に、明るいうちの早めの避難(予防的避難)を心がけることが重要になります。



豪雨災害時の5段階の警戒レベルと取るべき行動

警戒レベル	住民が取るべき行動	行動を促す情報
5	すでに災害が発生・切迫している状況 ただちに身の安全の確保を!	緊急安全確保
4	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難
2	自らの避難 行動を確認	洪水注意報 大雨注意報等
1	災害への 心構えを高める	早期注意情報

AEDの使い方

AED(自動体外式除細動器)は、心停止の傷病者を救う装置です。心臓のポンプ機能を正常に戻してくれます。一般の人でも使える設計なので、使い方をマスターしましょう。

AED使用の流れ

- AEDの準備**
AEDを傷病者の顔の近くに置く。音声メッセージと点滅するランプで、AEDから救助者がやるべき指示が出される。着ち着いて指示に従う。
- フタを開ける(電源が入る)**
フタを開けると自動的に電源が入る。以後、音声の指示に従って、操作する。
※機種によっては、AED本体をケースから取り出し、電源スイッチを押すものもある。
※AEDの対象者は、突然心停止を起こした傷病者。意識も呼吸もない人が対象となる。
- 電源パッドを装着**
袋から2個の電極パッドを取り出し、胸の右上(鎖骨の下で胸骨の右)と胸の左下(わきの下5~8cm下)に、すき間ができないようには。正しい位置は、電極パッドの裏面や付属した袋に表示されている。
※機種によっては、パッドのケーブルをAED本体に差し込む必要がある。
- 心電図の解析**
電極パッドをはると、傷病者から流れるように音声メッセージが流れ、除細動が必要かどうか自動的に心電図の解析が行われる(解析ボタンを押す必要がある機種もある)。
- 電気ショックの実施**
自動解析で電気ショックが必要と判断されたら、音声メッセージに従って操作する。傷病者に誰も触れていないことを再確認し除細動ボタンを押す。電気ショック後は、音声メッセージに従い、直ちに⑥の心肺蘇生を開始する。
※除細動を実施すると、傷病者の全身の筋肉が瞬間的にびくっと動く。
- 心肺蘇生とAEDを繰り返す**
④の電気ショックの後
④の結果「電気ショックの必要なし」などの音声メッセージが出た場合
上のいずれの場合も、ただちに心肺蘇生を行う。心肺蘇生を開始して2分(胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を5サイクルほど)たつと、AEDが自動的に心電図の解析をはじめ、再度「ショックの要・不要」の指示が出る。ショックが必要とされた場合、以後この手順(電気ショック1回→心肺蘇生2分)を、救急隊員や医師に傷病者を引き継ぐまで繰り返す。途中、普段通りの息をしはじめた場合は心肺蘇生を中止。回復体位(AEDをつけたまま体を横向きにする)にして観察を続ける。
※「ショックの要」のメッセージが出ても、普段通りの息がない場合は心肺蘇生を続ける。

地震の揺れと被害想定

(気象庁震度階級表より作成)

震度0 人は揺れを感じない。くさりも揺れを感じない。	震度5弱 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚にある食器類や書棚の本が落ちることがある。
震度1 屋内で静かにしている人の中には、わずかな揺れを感じる人がいる。	震度5強 大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しい。固定していない家具や、外では自動販売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。
震度2 屋内で静かにしている人の多くが揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。	震度6弱 立っていることが難しい。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。またドアが開かなくなる。耐震性の低い木造住宅では倒壊するものがある。
震度3 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じ、棚にある食器類は音をたてる。電線が少し揺れる。くさりも、安全確保を始める。	震度6強 立っていられず、はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
震度4 眠っている人のほとんどが目覚め、部屋の不安定な置物が揺れることがある。電線が大きく揺れる。	震度7 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。揺れに翻弄される。

マグニチュードと震度の違い

地震の規模をマグニチュード、揺れの強さを震度といいます。東北地方太平洋沖地震では地震の規模を示すマグニチュードは9.0を記録し、この地震より宮城県栗原市で震度7を観測。平成28年4月の熊本地震ではマグニチュードは7.3を記録し、震度7を2度観測しました。マグニチュードは地震のエネルギーの規模を示し、マグニチュードが1増えると地震のエネルギーは約32倍、2増えると1000倍になります。

令和8年より気象の警報などが大きく変わります

大雨	河川氾濫	土砂災害	高潮	住民が取るべき行動
低地の浸水や大河川以外の氾濫	1級河川などの大きな河川の氾濫	土砂崩壊の恐れがある急傾斜地の崩壊による土石流	海面の上昇や高波による浸水	【避難情報】
レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保! 【緊急安全確保】
<警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難!>				
レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難 【避難指示】
レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避難、避難の準備など 【高齢者等避難】
レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避難ルート、避難のタイミングなど)
レベル1				早期注意情報 災害への心構えを高める

状況によって避難の方法は変わる!

1 水平避難

浸水が始まる前なら「水平避難」
浸水しない場所にある避難場所などへ移動

2 垂直避難

浸水開始後は「垂直避難」
頑丈な建物の2階以上または近隣の高い建物などへ避難

非常持出品と備蓄品をそろえよう

いざというときに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常持出品(非常時)

- 携帯ラジオ
- 救急医療品
- 貴重品
- 懐中電灯

備蓄品(復旧)

- 飲料水
- 非常食品
- 燃料
- その他

定期点検! 非常時持ち出し品は定期的に点検を!

避難生活が長引くときに便利なもの

平成28年熊本地震で役に立ったもの